

啐啄同機



大阪市立榎本小学校

5月18日

NO、6

いじめ・いのちについて考える 2

人が耐えられる最大の痛みが「陣痛」であるというのはよく聞く話です。経験したことがないのですが（男の私は当たり前ですが）、そうなんだろうなと思っていました。

ところが、助産婦さんが書いた「赤ちゃんの方が妊婦さんの何倍も苦しい」というコラムを読んで驚きました。

筋肉である子宮が収縮したり、緩んだりするのが陣痛の正体だそうです。陣痛が始まり、子宮が収縮すると、赤ちゃんは首のところを思い切り締め付けられ、へその緒からの酸素が途絶え、息ができなくなるそうです。1分経てば子宮は緩み息ができるようになる。また、陣痛が始まれば1分間も息ができなくなる。

陣痛の間隔はだんだんと狭くなる。この陣痛に耐えられなければ、赤ちゃんは死んでしまいます。まさに命懸けです。あまりに苦しいので、赤ちゃんの時代の記憶は残さないという話を聞いたことがあります。

陣痛が起こるためには、陣痛を起こすホルモンが必要です。驚くことに、このホルモンを出しているのは母親ではなく、赤ちゃん自身であるということです。

赤ちゃんはとても賢く、自分がこの苦しみに耐えられると判断してホルモンを出す。一番いいタイミングで生まれてくる。誕生日も自分で選んでいる。

急に激しい陣痛を起こせば、命が危ない。最初は陣痛を起こすホルモンを少ししか出さずに、様子を見てホルモンの量を調整（！）するらしい。

人はみな自分で判断して、自分の意志で生まれてくるのです。全ての赤ちゃんは生死の狭間で、小さな体で必死に生きようと頑張っけて生まれてきます。人は誰もがその日を選んで生まれてきます。誕生日とは命を懸けて選んだ日なのです。

そう考えると、誕生日は特別な日だと実感できます。

お子さんに生まれた時のお話してあげてください。

どれほどあなたの誕生を喜んだか。

どれほどうれし涙を流したか。

どれほど無事に生まれてことに安心したか。

その特別な一日の出来事を話してあげてください。特別な存在であることを教えてあげてください。

そして、伝えてください。

あなただけでなく、全てのお友達も同じように特別な存在であることを。自分と同じように他人も大事にしないといけないことを。命の大切さを。



榎本小学校 校長 篠崎 勇